

IIS NEWS

☆竹中元教授逝去☆

元第二工学部教授 竹中二郎氏（応用力学，材料力学——昭和23年3月定年退官）は，昭和34年9月17日午前4時30分，胃ガンのため千葉県習志野市の自宅において72歳をもって永眠された。告別式は，同21日，西千葉カトリック教会において取り行なわれた。

☆講 演☆

◇教授 永井芳男「ジクロル・アントラジンキノンの化学，トルエンのシアノエチル化」日本学術振興会第116・芳香族化学委員会研究業績発表講演会，大牟田市において（1959.6.11）

◇助教授 尾上守夫「自動プログラミング」電子工業振興協会計算センター（1959.10.3）

◇教授 永井芳男，助手 後藤信行「ベンゾイレンペリレン・メチルイミドのモノクロル誘導体の合成」日本学術振興会第116・芳香族化学委員会，第1分科会（1959.10.6）

◇教授 末岡清市，大学院学生 井上多聞「多重極遷移における長波長近似について」日本物理学会（原子核理論部門）広島において（1959.10.8）

◇教授 久保田広「最近の応用光学」日本物理学会年会特別講演，広島大学において（1959.10.12）

◇教授 久保田広，研究生 松居吉哉「眼鏡レンズの収差について」応用物理学会，大阪大学において（1959.10.14）

☆寄 稿☆

◇教授 久保田広，研究生 松居吉哉「眼鏡レンズの収差について」応用物理，Vol. 28, No. 9

☆生研職員海外渡航状況☆

◇第5部 大島太市助手は，東京大学インド史蹟総合調査団の一員として参加することとなり，10月28日インド・西パキスタンに向け出発した。帰国は昭和35年3月下旬の予定である。

☆ロクーン実験とカッパ7型地上試験☆

カッパ7型として設計されたロケットエンジンの地上試験が，秋田県道川の東大秋田ロケット実験場内の特設テストスタンドで34年9月30日17時10分より行なわれた。このロケットエンジンは，直径420mm，全長約6,000mmで7型には，単機として，また8型にはブースタとして使用される予定である。

ロクーンは，去る7月ダミーロケットによる予備実験が行なわれ，その成果を基礎に，34年10月1日，シグマ3型を2機飛揚させた。1号機は，6時36分，2号機は，10時31分放球した。台風15号などの影響で6日間待機を余儀なくされたが，かえって1日2機飛揚させる準備ができた。ロクーンの34年度実験計画は，これで完了した。なおロクーン実験場は青森県庁ならびに六ヶ所村の好意により上北郡六ヶ所村沖付海岸地先を使用することができた。

IIS NEWS

筆 者 紹 介

◇鈴木 弘 教授 工博 専攻 塑性加工学
◇東京大学生産技術研究所 鈴木研究室
◇株式会社第二精工舎
◇幸上無線株式会社
◇佐藤武彦 山武ハネウエル計器株式会社
◇伊藤敬之助 同上
◇河西孝美 同上
◇樋口登志男 東洋電機株式会社

◇石原智男 助教授 工博 専攻 流体力学・流体機械学
◇荒瀬 晟 株式会社岡村製作所
◇佐藤二郎 仙台精密材料研究所(株式会社第二精工舎)
◇池田國男 同上
◇鎌田伸男 同上
◇橋爪 伸 技官 専攻 塑性加工学
◇小野孝一 技術員 専攻 同上

出版委員	委 員	橋 藤 雄	委 員	今 岡 稔	専門委員	星 野 昌 一
出版委員長	久保田 広	柴 田 碧		西 川 精 一		齋 藤 成 文
委 員	北川英夫	*高橋幸伯		山 本 寛		玉 木 章 夫
	山田嘉昭	尾上守夫		井 口 昌 平	編 集 室	下 村 潤 二 朗
	*大島康次郎	浜 崎 襄 二		池 辺 陽		水 野 晴 明

* 印 当番委員

第 11 卷 第 11 号

生 産 研 究

(本誌は生産技術研究所の研究紹介誌として，毎月1回発行する)

1959年11月1日発行

頒価 120 円
編集者
発行者

久 保 田 広
福 田 武 雄

印刷所
発行所

三美印刷株式会社
東京都千代田区神田多町2の7
東京大学生産技術研究所
千葉県弥生町1
電話千葉(2) 0261(代表)